

**みんなでつくろう！  
セーフコミュニティちちぶ**

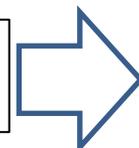
**自然の中での安全対策委員会  
活動報告**



**発表者：委員長 坪内幸次  
所 属：秩父観光協会**

# 自然の中での対策委員会設置の背景

①山岳遭難事故が多発している。



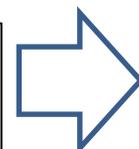
背景①、②

②余暇・アウトドアレジャー・スポーツ中の事故に不安を感じている人が多い。



背景③

③農林作業中に事故やケガをする人が多い。



背景④、⑤

④サイクリング中の事故が発生している。

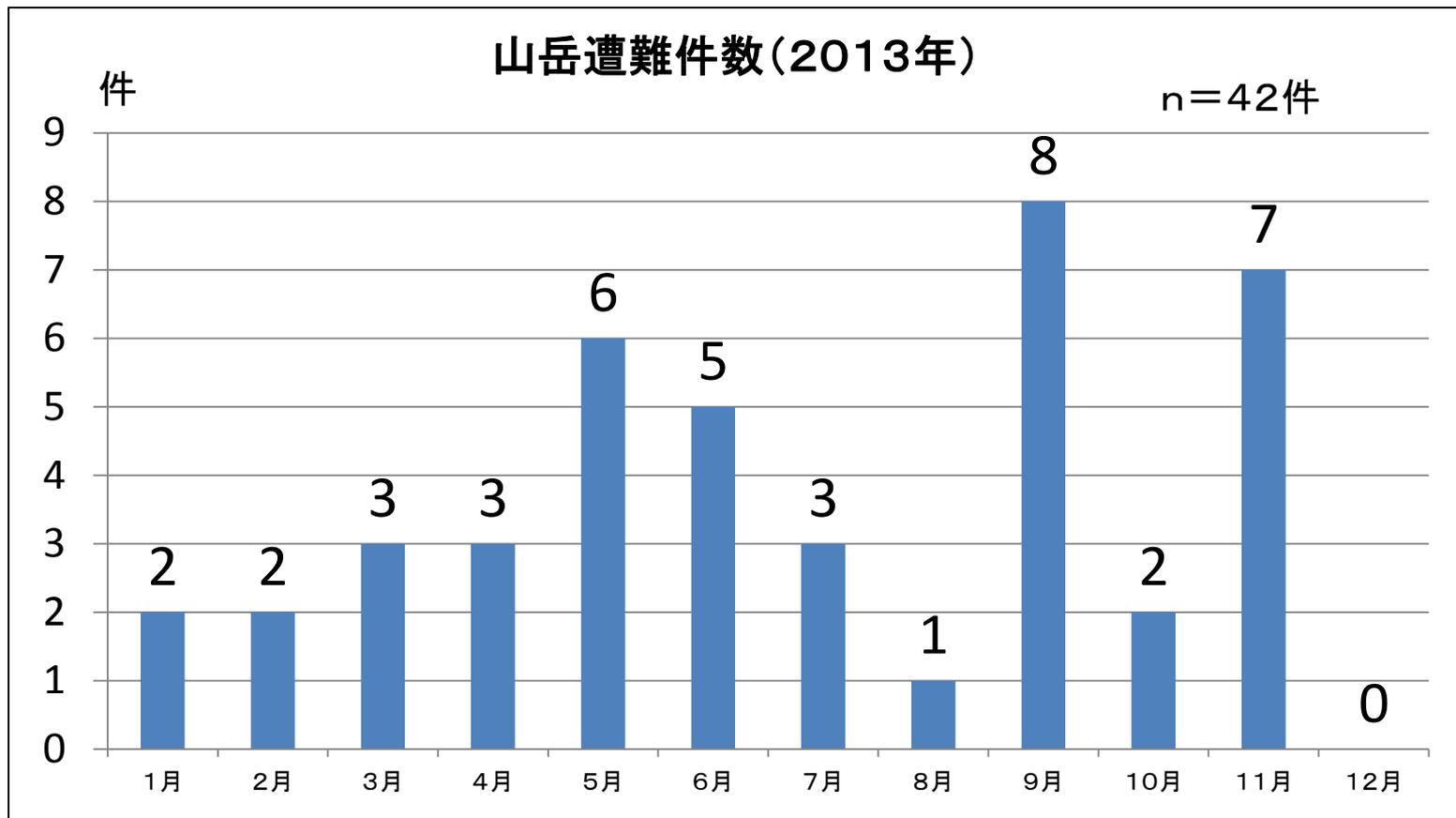


背景④

# 対策委員会設置の背景 ①

## 山岳遭難発生件数

秩父市では、毎年多くの山岳遭難事故が発生しています。  
2013年には、年間で42件の遭難者がありました。

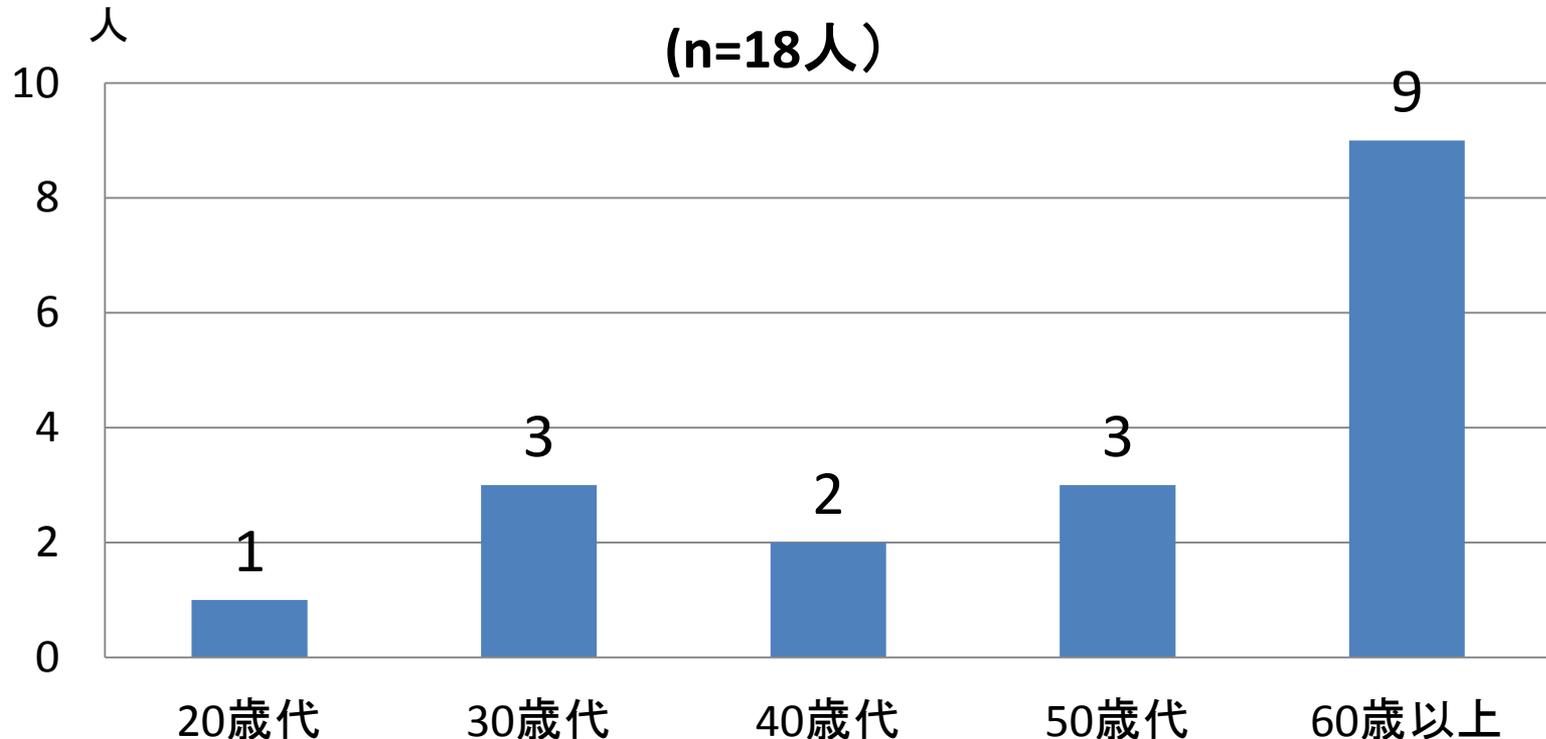


# 対策委員会設置の背景 ②

## 防災ヘリコプターによる救助件数

秩父市には初級者から上級者まで楽しめる山がそろっています。  
2012年は、年間で18人が救助されています。このうち8人は、県外からの登山客でした。

### 防災ヘリによる救助者 (n=18人)

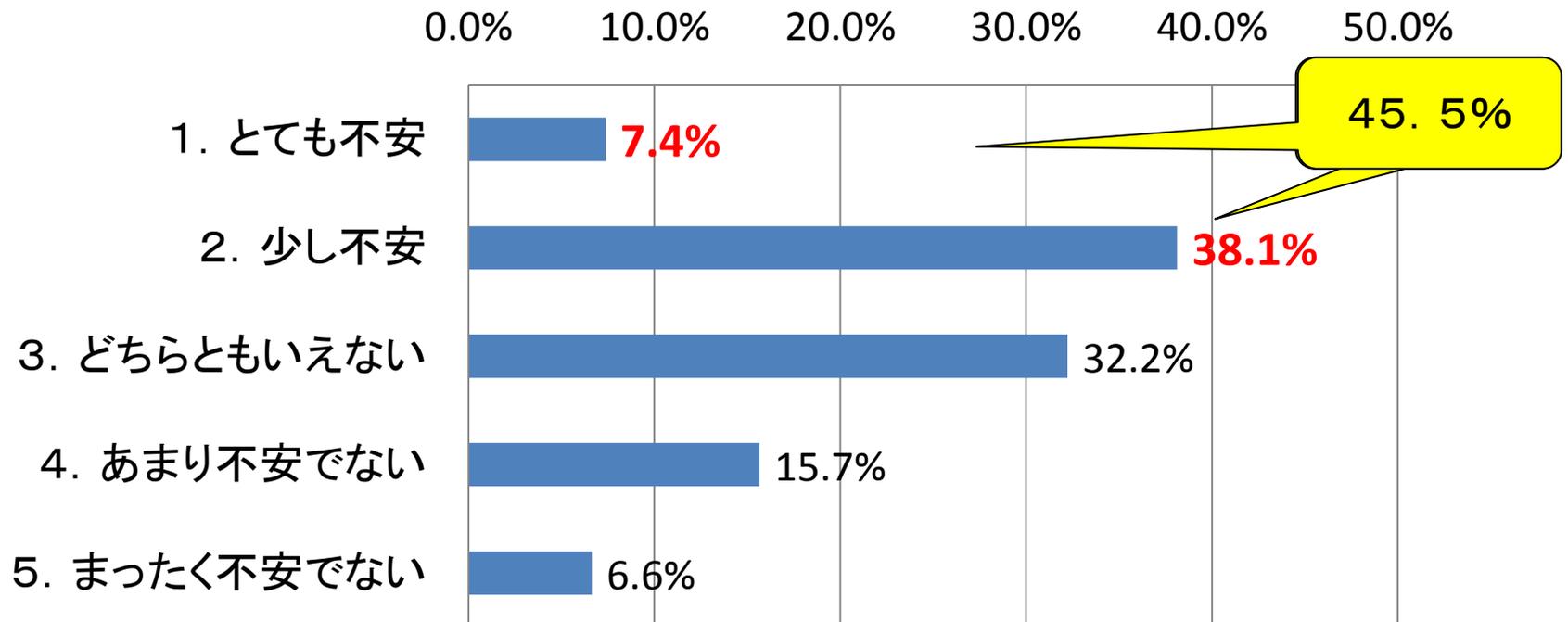


# 対策委員会設置の背景 ③

## アウトドアレジャーでの不安

市民の約半数(45.5%)は、余暇・スポーツ・アウトドアレジャーでの事故に対して不安を感じています。

### 余暇・スポーツ・アウトドアレジャーでの事故に対する不安(n=1,086)



# 対策委員会設置の背景 ④

## アウトドアレジャーでのケガ

登山のほか、「芝桜の丘」や「ミューズパーク※」などの公園でのケガも多くなっています。また、サイクリングでのケガも多く発生しています。いずれも秩父市外からの人のケガが多い状況です。

### <自然の中での外傷の状況>

場 合	件 数	備 考
登山・ハイキング	67	
サイクリング	27	
公園内	43	うちミューズパークが35件
農林作業中	35	うち18件が機械取扱い中
河原・沢	36	うち釣りが13件
キャンプ	7	

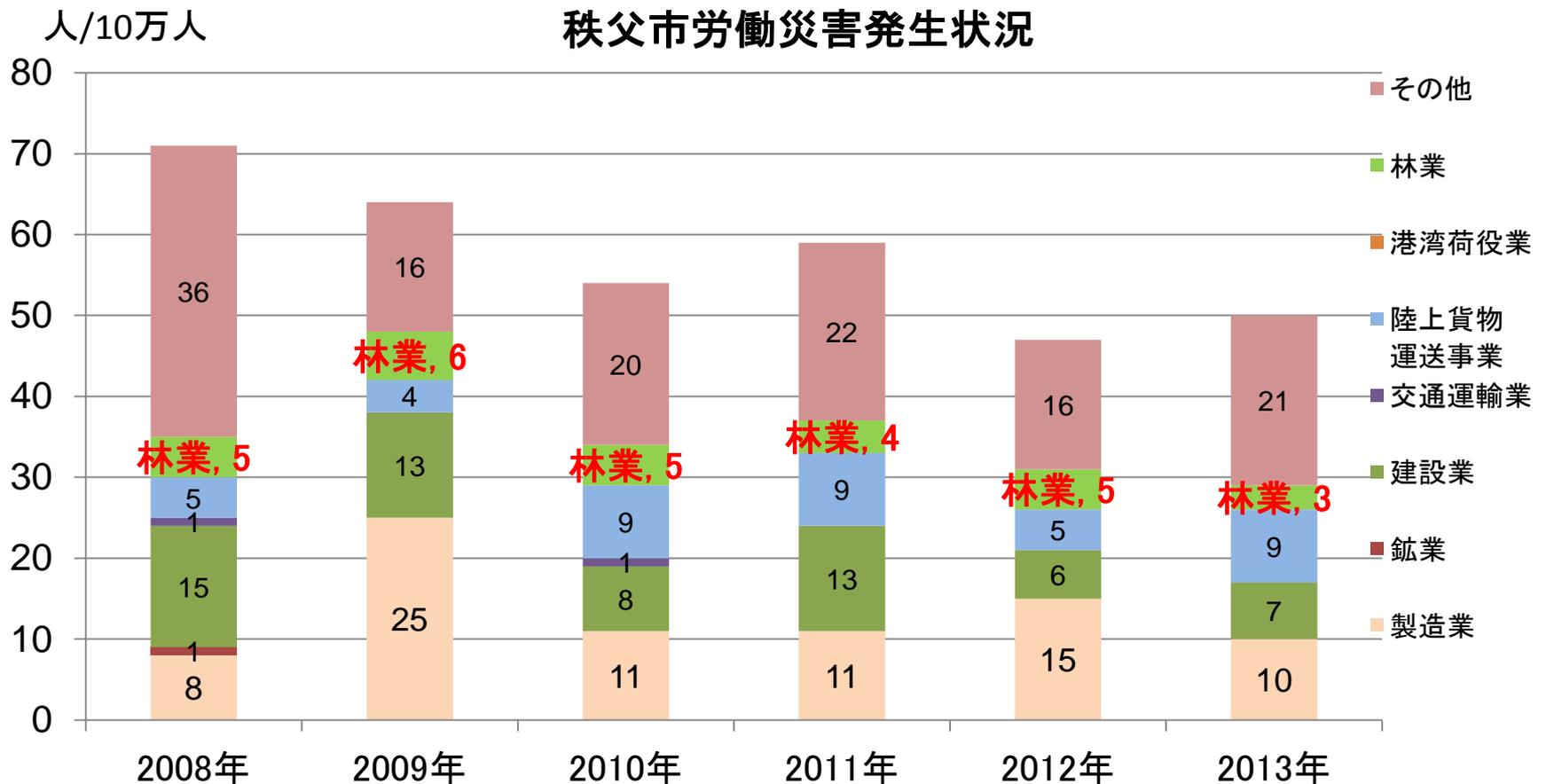
出典：秩父消防本部救急搬送データ(2008年～2013年)

※「ミューズパーク」は、埼玉県と秩父市が管理する広さ約270haの公園で、プール、テニスコート、サイクリングコース、音楽ホール、宿泊施設などを備えています。

# 対策委員会設置の背景 ⑤

## 労働災害データ

国の値に比べて林業作業中のケガが多く発生していることがわかります。  
 ※国の林業における労働災害発生率は「2件／10万人」です（2008年～2013年の平均値）



## 自然の中での安全対策委員会の構成

区分	団体・組織名	委員数
住民組織等 (6人)	町会長協議会	1名
	民生委員・児童委員協議会	1名
	農協	1名
	観光協会	1名
	体育協会	1名
	青少年育成協議会	1名
行政機関 (7人)	警察	1名
	消防	1名
	秩父市(森づくり課、農政課、市民スポーツ課、 観光課、公募職員)	5名

# 自然の中での安全対策委員会の経過①

回数	開催日	主な会議内容
第1回	2013年 8月19日	セーフコミュニティの概要説明
第2回	2013年 9月27日	第1回ワークショップ(主観的な課題)
第3回	2013年10月31日	第2回ワークショップ(データから見る課題)
第4回	2013年12月17日	重点課題の選定、方向性の検討
第5回	2014年 1月22日	重点課題の選定、方向性の検討、対象の設定、取組みの議論
第6回	2014年 3月25日	重点課題に対する取組みの検討
第7回	2014年 4月25日	現地指導リハーサル
現地指導	2014年 5月28日	専門家による現地指導(活動報告)

## 自然の中での安全対策委員会の経過②

回数	開催日	主な会議内容
第8回	2014年 8月11日	現地指導の講評について白石先生から説明 (合同対策委員会)
第9回	2014年 9月 4日	取り組みの具体的な進め方及び成果指標の検討
第10回	2014年11月 5日	取り組み及び活動指標、成果指標の検討
正副委員長 会議	2014年11月26日	各対策委員会の進捗状況の報告、情報共有
第11回	2014年12月25日	課題と取り組み、成果指標の検討
第12回	2015年 2月 5日	取り組み及び成果指標の検討
第13回	2015年 3月20日	取り組み及び成果指標の検討
第14回	2015年 5月13日	取り組み及び成果指標の最終確認
第15回	2015年 6月15日	現地審査の報告資料を検討

# 対策委員会における地域診断結果

## 【ワークショップによる主観的な意見】

- ・地図を持たずに山に入る人がいる。
- ・アウトドアレジャーに適した服装をしていない。
- ・草刈り機が危ない。
- ・ミューズパークの歩道は滑る。
- ・夜間運動している人で黒い服の人が意外に多い
- ・有害鳥獣による被害が多い。
- ・動物が道に飛び出してきて危ない

## 【データからみた客観的な危険】

- ・山岳遭難事故が多い。
- ・山岳遭難は、単独・男性・中年が多い。
- ・ハチ刺されが多い。
- ・ハチ刺されは、9月が多く、集団で刺される事故もある。
- ・農業用機械でケガをする人が多い。
- ・立木伐採時の事故が多い。
- ・サイクリングでのケガが発生している。
- ・ミューズパーク周辺での事故が多い。

図1

図2・3

図4

図4

図5

表1

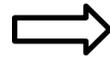
図6

図6

# 地域診断① ワークショップでの検討



各委員が数多くの意見を出し合いました。



ワークショップでの検討事項を他の委員会の皆さんに発表し、情報共有しました。

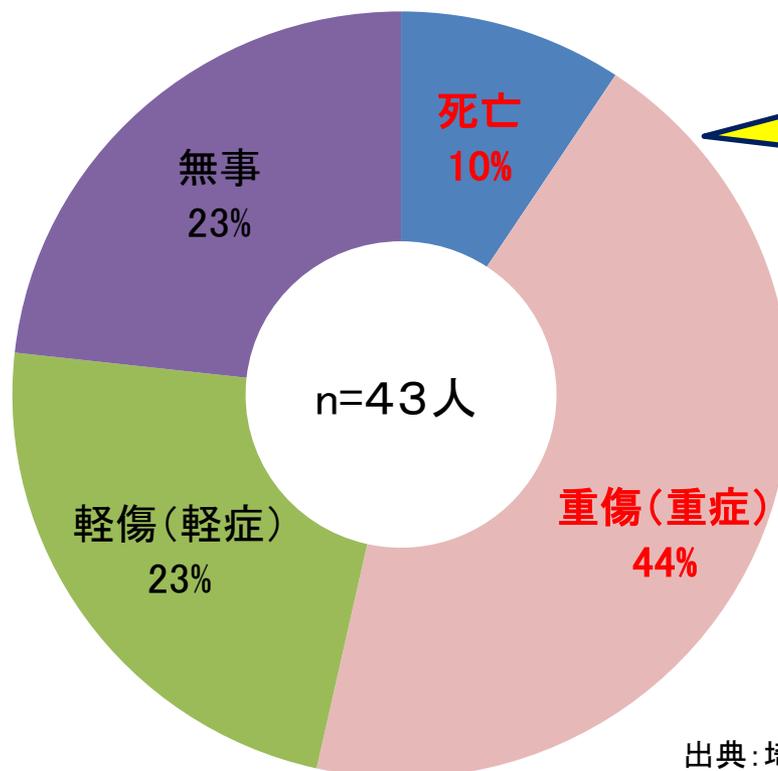
# 地域診断② データから見た客観的な危険(1)

## 山岳遭難の状況①

遭難者の負傷程度をみると、「死亡者」、「重傷者」の割合が5割以上を占めており、重篤な事故に至るケースが多い。

図1

負傷程度別山岳遭難者数  
(2013年)



半分以上が  
重篤な事故

※このうち市外から  
の登山者は42人

出典:埼玉県警察山岳遭難データ

# データから見た客観的な危険(2)

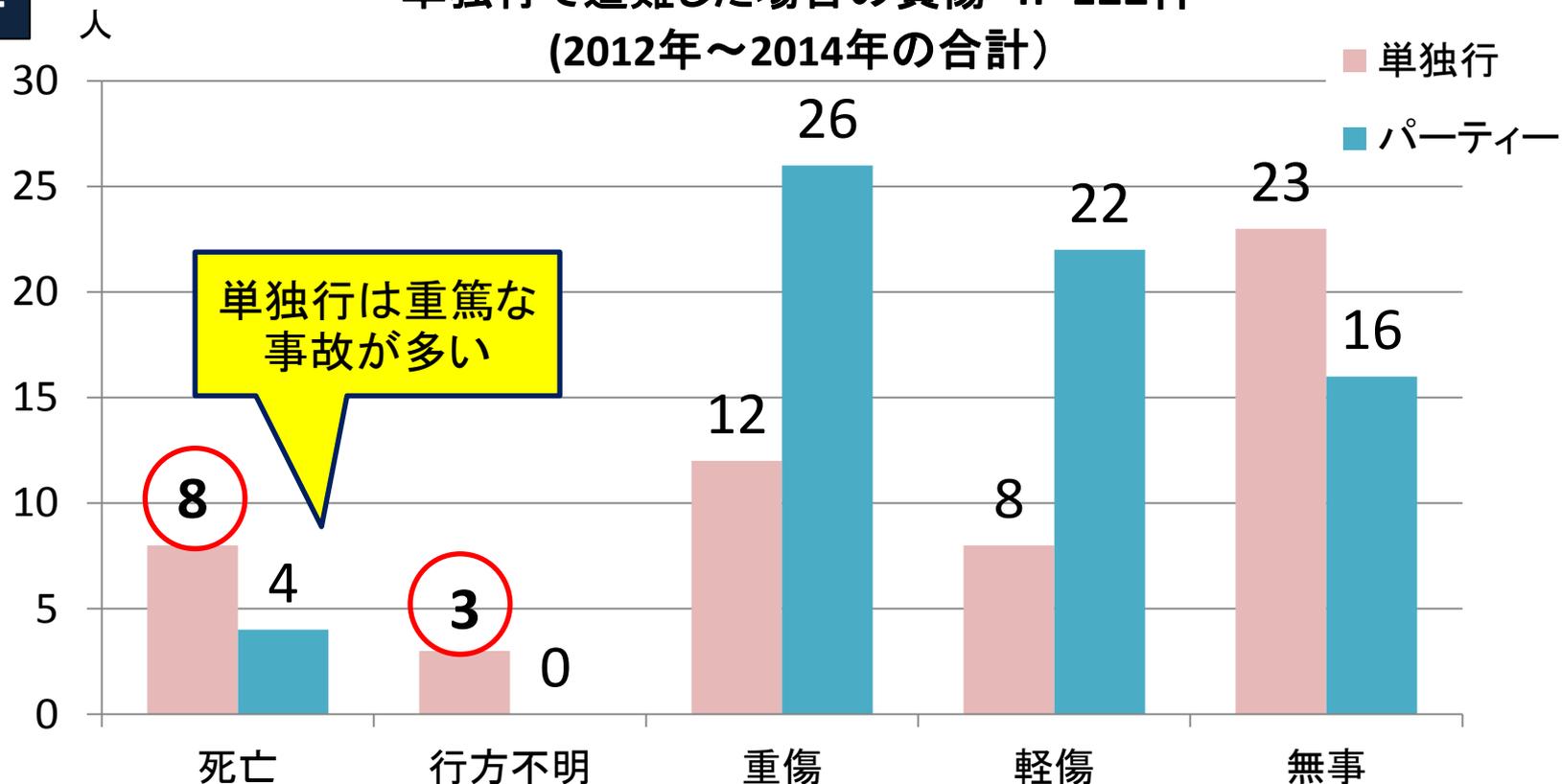
## 山岳遭難の状況②

遭難者の状況を見ると、「単独行」の場合に、特に、重篤な事故に至るケースが多い。

図2

単独行で遭難した場合の負傷 n=122件

(2012年～2014年の合計)



# データから見た客観的な危険(3)

## 山岳遭難の状況③

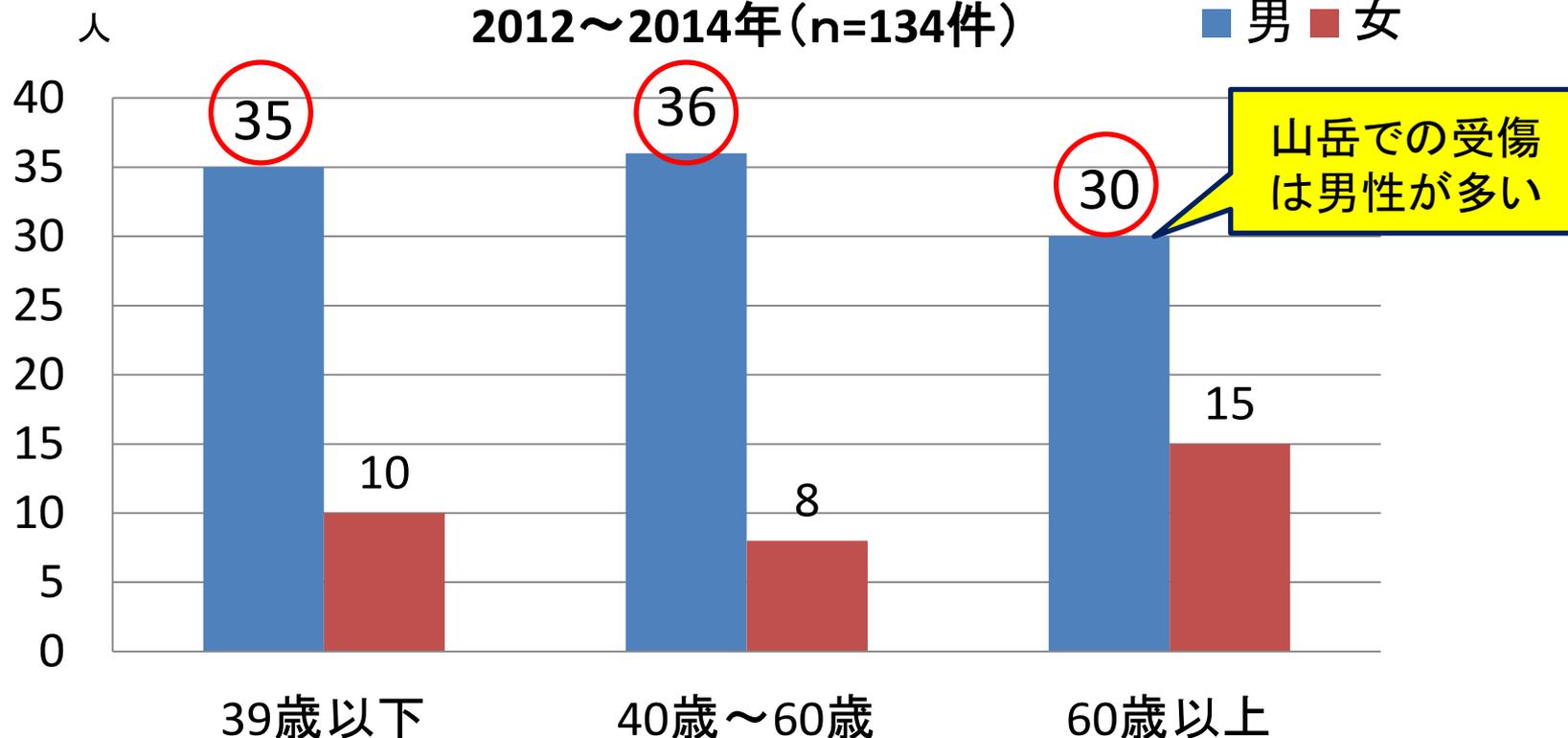
山岳遭難の男女別の内訳をみると、男性の割合が高い(4分の3)。  
男女ともに中年層のケガが多い。

図3

### 男女別・年代別受傷状況

2012～2014年(n=134件)

■ 男 ■ 女



# データから見た客観的な危険(4)

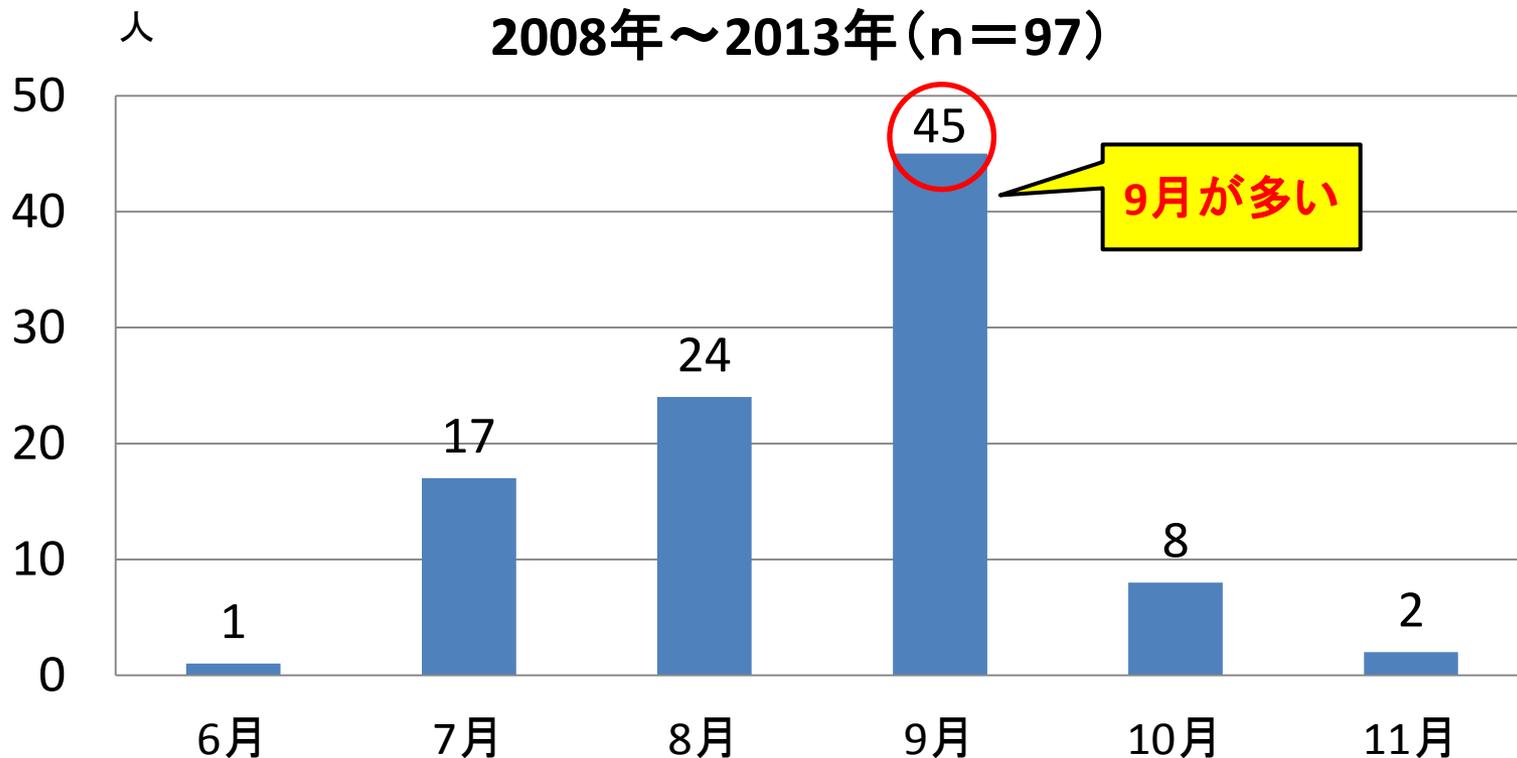
## ハチ刺されによる外傷は9月が多い

- ・ハチ刺され事故が数多く発生している。
- ・ハイキングや課外授業の際に、集団で刺されるケースもある。
- ・夏～秋にかけての発生が多く、特に9月に集中している。

図4

### ハチ刺されによる搬送件数(月別)

2008年～2013年(n=97)



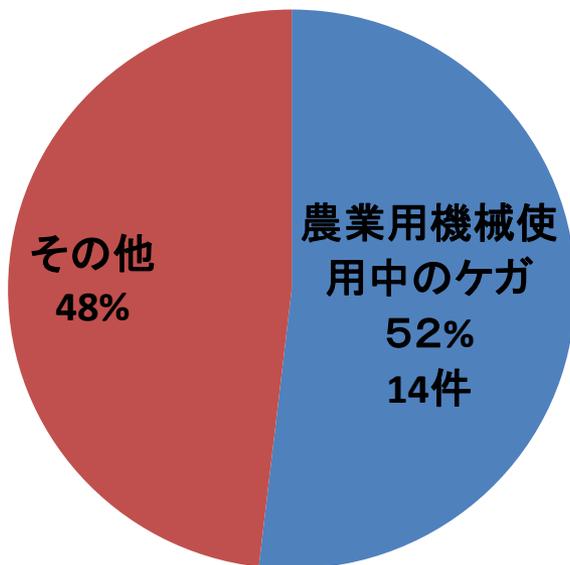
# データから見た客観的な危険(5)

## 農作業による外傷の状況

- ・「農業用機械の使用」に発生している事故が14件ある。
- ・14件中、12件は、「挟まれ・巻き込まれ」によるケガ。
- ・死亡に至る事故もある。

図5

農作業中のケガ(n=27)



ケガの分類	件数	ケガの度合い
挟まれ・巻き込まれ	12	死亡1件 重傷2件 中傷4件 軽傷5件

# データから見た客観的な危険(6)

## 林業における外傷の状況

林業従事者では、倒木との衝突による骨折(7件)、チェーンソーなどの機具による創傷(6件)が多い。いずれも、伐採作業中の事故。

表1

林業における労働災害発生状況(n=28件)  
(2008年～2013年の合計)

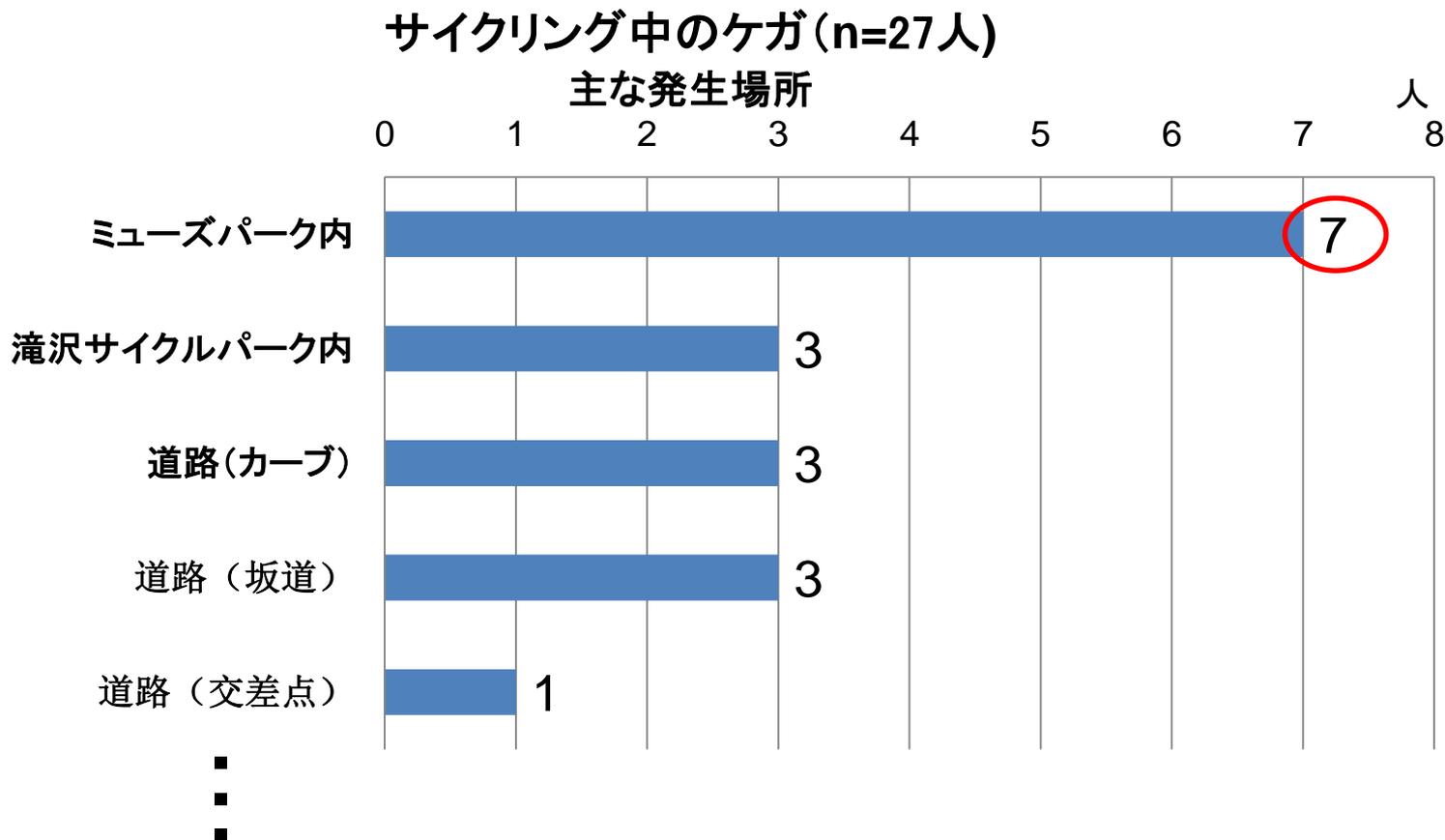
受傷の要因	件数	ケガの種類
倒木との衝突	7	すべて骨折
立木からの落下・接触	2	すべて骨折
チェーンソー等への接触	6	すべて創傷
その他	13	
計	28	

# データから見た客観的な危険(7)

## サイクリング中の外傷の状況

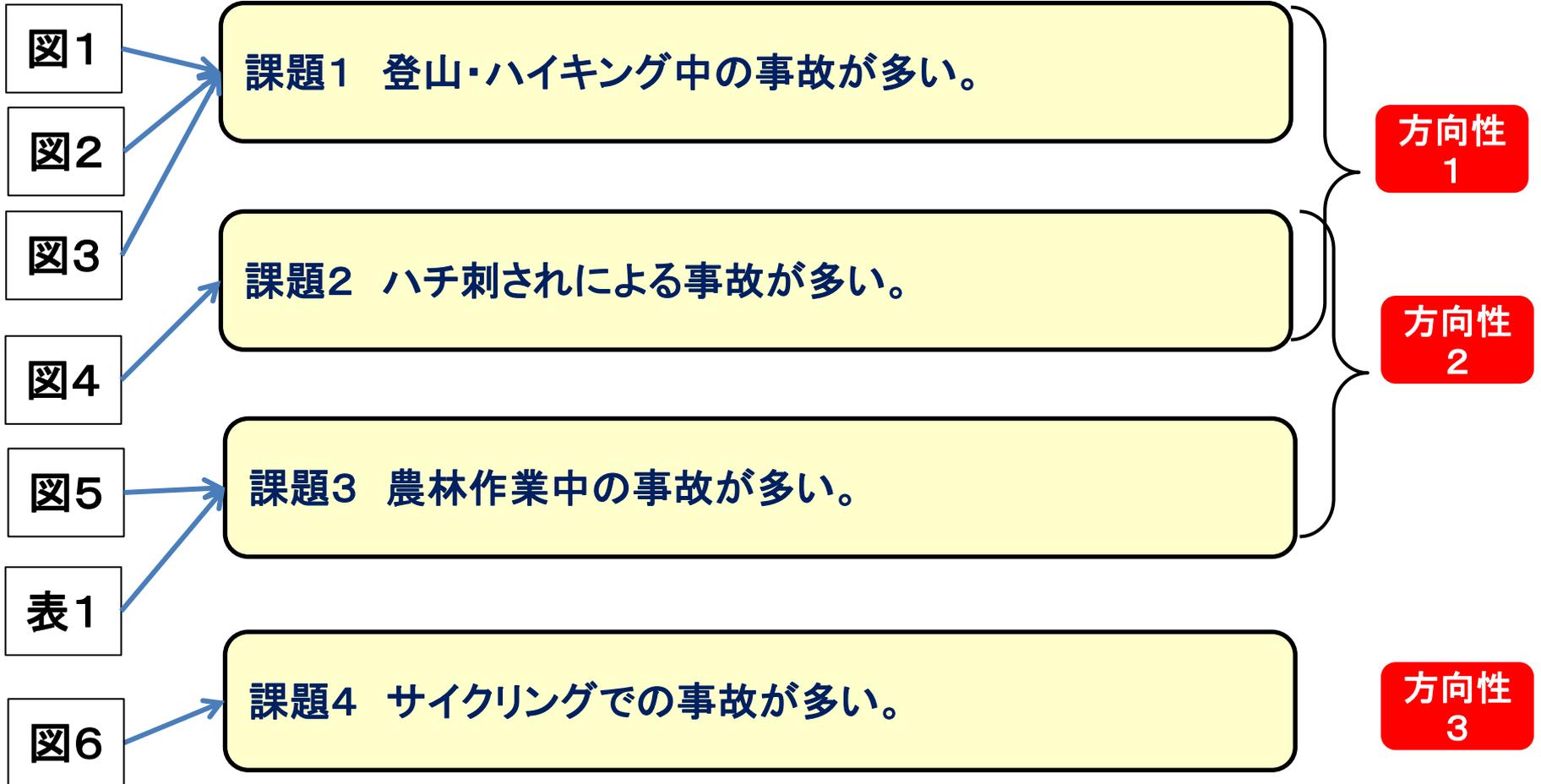
- ・サイクリング中におけるケガは27件あった。
- 「ミュージックパーク内」が7件ともっとも多い。

図6

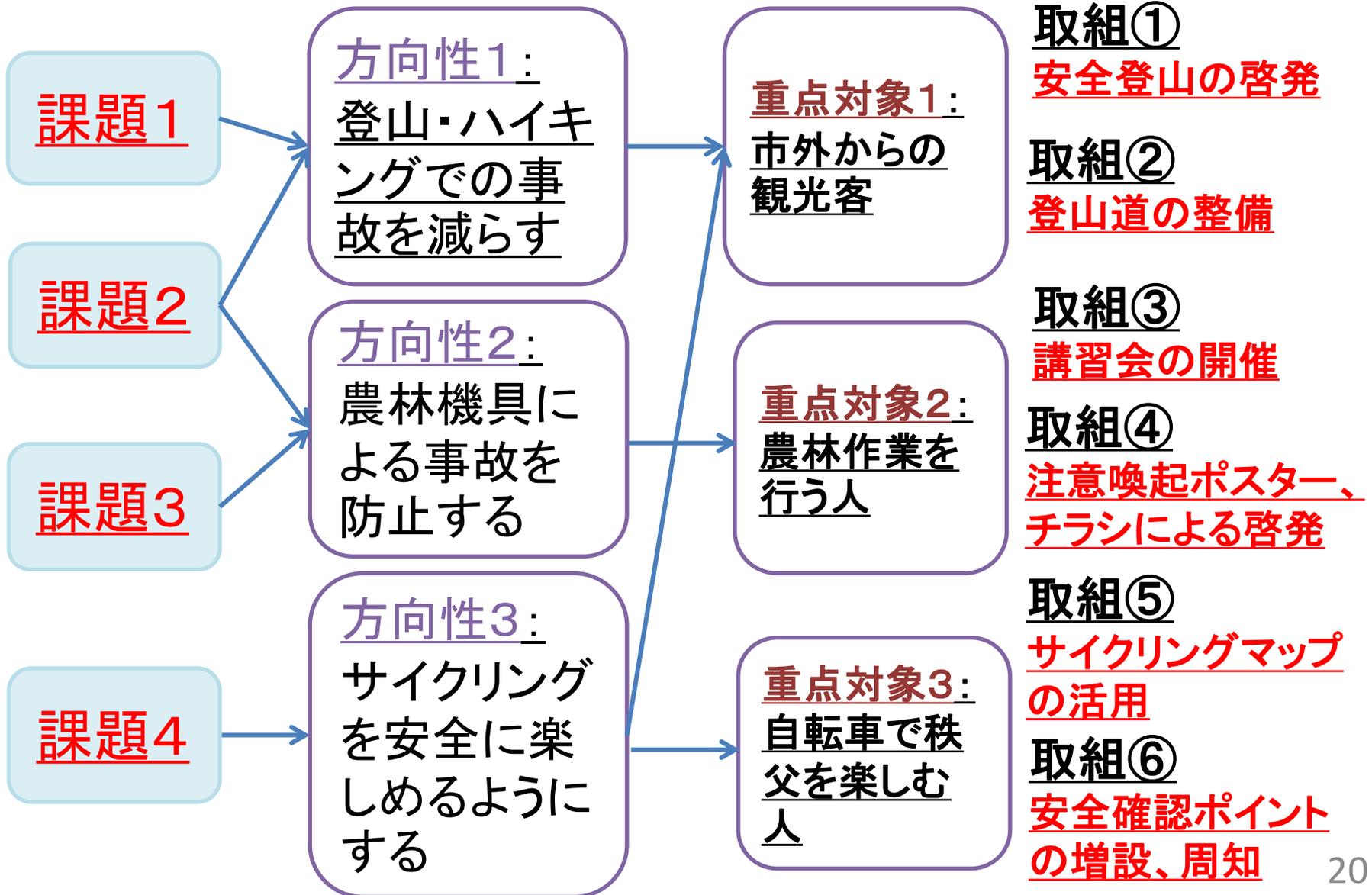


出典: 秩父消防本部救急搬送データ(2008年~2013年)

# 課題の整理



# 課題、方向性、重点対象、取組の整理



# 自然の中での安全の活動一覧

	登山	ハチ刺され	農林作業事故		サイクリング
啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎安全登山の啓発</li> <li>・安全登山キャンペーンの実施</li> <li>・安全登山パンフレット、チラシの配布</li> <li>・ホームページで安全登山の啓発</li> <li>・駅に安全登山パンフレット設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市ホームページでの注意喚起</li> <li>・通報等があった場所への注意看板の設置</li> <li>・安全登山キャンペーン等での注意啓発</li> <li>・農林機具講習会等での注意啓発</li> </ul>	プロ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎秩父市での農林機具講習会の開催</li> <li>・他市で開催される講習会のPR</li> <li>・農林業従事者の会合での講習会の開催</li> <li>・県ホームページでの事故防止啓発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎サイクリングマップの活用</li> <li>・サイクリングマップの設置箇所を増やす</li> <li>・サイクリングマップに危険箇所を記載</li> <li>・駅にサイクリングマップの設置を進める。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎登山届の徹底</li> <li>・登山届のオンライン登録の推進</li> <li>・観光パンフレットに登山届のQRコードの記載</li> </ul>		個人	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ホームセンター等農林機具販売場所での注意喚起ポスターの掲示、チラシの配布</li> <li>・市窓口での事故防止啓発チラシの配布</li> </ul>	
環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登山ポストの増設</li> <li>・登山道の案内標識の設置(県)</li> <li>・注意喚起看板(日英中韓)の設置(県)</li> <li>・登山道の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蜂の巣駆除の際の防護服と薬剤の貸し出し</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>◎安全確認ポイントの増設・周知</li> <li>・サイクルステーションの整備</li> <li>・レンタサイクルへのヘルメット貸し出し</li> <li>・自転車専用レーンへの設置</li> </ul>

◎: 対策委員会での重点取り組み

赤文字: 新規

緑文字: 改善

黒字: 既存の取り組みを継続

### ・取り組み①

#### 「安全登山の啓発」

##### 1 概要

登山の危険性や装備・携行品等について注意を促すパンフレットを配布



##### 2 関係主体

警察、消防、県、市、秩父鉄道、西武鉄道

##### 3 活動実績(2014年)

キャンペーン 2回(春・秋)

##### 4 SCを始めてからの変化

市のホームページにもリンクを貼りつけ。駅などの目立つ場所に安全登山パンフレットを設置。

## ・取り組み②

### 「登山道の環境整備」

#### 1 概要

遭難件数の多かった「秩父御岳山(2014年4件)」について、案内標識を設置。

#### 2 関係主体

警察、消防、県、市

#### 3 活動実績

案内板設置 2箇所



#### 4 SCを始めてからの変化

秩父の山は、それほど高い山はないが、樹林がうっそうとしていたり、林道と交差していたりして、道迷いしやすい。遭難件数が多い山に対して案内板等を設置する。

### ・取り組み③

#### 「安全講習会の実施」

##### 1 概要

農林業従事者の会合等で、農林機具の安全使用に関する講習(ワンポイントアドバイス)を実施する。  
また、秩父市内で講習会を実施する。

##### 2 関係主体

農協、森林組合、農林振興センター、市

##### 3 活動実績

2015年度から実施

##### 4 SCを始めてからの変化

従来は、遠方(熊谷市など)まで行かないと参加できなかったが、地元で講習会を開催することで、参加しやすい環境を作る。

### ・取り組み④

#### 「チラシの配布」

##### 1 概要

初心者が機具を購入しやすいホームセンター等で安全使用を呼びかけるチラシを配布する。

##### 2 関係主体

ホームセンター、町会、市

##### 3 活動実績

秩父市内のホームセンター4店に300枚配布

##### 4 SCを始めてからの変化

初心者が購入しやすいしやすしいホームセンターでの事故防止啓発を開始



### ・取り組み⑤

#### 「サイクリングマップの活用」

##### 1 概要

既存のサイクリングマップに、危険個所を記載してサイクリストに注意を促す。

##### 2 関係主体

観光協会、体育協会、秩父鉄道、西武鉄道  
県、市

##### 3 活動実績

2013年度 サイクリングマップ66,000部印刷  
2014年度 事故マップをレース参加者へ配布  
2015年度 配布場所を8ヶ所増設  
大型車の追い抜きの際の風圧で転倒する危険  
→大型車の運転手に注意喚起(予定)

##### 4 SCを始めてからの変化

危険個所の記載はあったが、わずかだった。増刷時に、記載箇所数を増やす。マップの配布場所を増やした。



### ・取り組み⑥

#### 「安全ポイントの周知」

##### 1 概要

空気入れ、パンク修理セットなどを設置している安全ポイントを増設する。また、利用者が少ないことから周知する。

##### 2 関係主体

観光協会、体育協会、県、市

##### 3 活動実績(2014年)

1件増設(累計5箇所)

##### 4 SCを始めてからの変化

安全ポイントを知らない人が多いことから、周知する取り組みを実施。



# 現地指導の際のアドバイス

## アドバイス

①

農作業はプロの人と趣味で行う人がある。アプローチが異なることに注意

対応

プロ → 講習会の開催や、定期的に行われる会合で注意喚起  
趣味の人 → ホームセンターでチラシ配布

## アドバイス

①

観光客を対象とするのだから、パンフレットを置く場所を工夫すべき

対応

安全登山のパンフレットを駅が目立つところに設置

## 取組

### 取組 1

対策:安全登山の啓発

実施・関係者:警察、県、消防、市、秩父鉄道、西武鉄道

実施内容:登山の危険性や装備・携行品等についてパンフレットの配布、ホームページに掲載、街頭キャンペーン等により注意喚起し、安全登山を啓発する。

改善点:市のホームページにもリンクの設置。駅に安全登山パンフレット設置



## 成果

### 成果 1

活動指標:キャンペーン実施回数、チラシ配布数

短期・中期的な成果:安全登山の認識の向上

長期的な成果:山岳遭難件数の減少



### 取組 2

対策:登山環境の整備

実施・関係者:警察、県、消防、市

実施内容:遭難の多い登山道について、迷いやすい場所に案内板等を設置する。また、迷いやすい場所を記した地図を作成して配布する。

改善点:道迷いによる遭難件数の多い山を対象に案内板を設置。



### 成果 2

活動指標:案内板設置数、案内地図配布数

短期的な成果:案内板の設置数

中期的な成果:案内板の設置数

長期的な成果:対象とした山での遭難件数の減少

### 取組 3

対策:地元での農林機具講習会の開催

実施・関係者:市、農協、

実施内容:農林業従事者の会合等で、農林機具の安全使用に関する講習会(ワンポイントアドバイス)を実施する。また、地元での講習会を実施する。

改善点:地元で安全講習会を開催することで、開催しやすい環境を作る。



### 成果 3

活動指標:講習会実施回数、講習会参加者数

短期的な成果:安全な使用方法の知識の向上

中期的な成果:安全な使用方法を守っている人の割合

長期的な成果:農林機具による事故の減少

## 取組

### 取組4

対策:ホームセンター等での注意喚起ポスターの掲示、チラシの配布による啓発

実施・関係者:市、町会

実施内容:市内のホームセンター4か所に農林機具販売時の啓発チラシの配布を依頼

改善提案:新規の取り組み

### 取組5

対策:サイクリングマップの活用

実施・関係者:市、体育協会、県、観光協会、秩父鉄道、西武鉄道

実施内容:サイクリングマップに、危険箇所を掲載する。

改善点:事故発生箇所などの危険箇所を掲載。駅への設置を進める。

### 取組6

対策:安全ポイントの周知

実施・関係者:市、体育協会、県、観光協会

実施内容:市内の道の駅などに空気入れ、パンク修理セットを設置して安全確認ポイントとしているが、認知度が低いことから周知する。

改善点:のぼり等により、目立つようにする。

## 成果

### 成果4

活動指標:チラシ設置個所、配布数

短期的な成果:安全な使用方法の知識の向上

中期的な成果:安全な使用方法を守っている人の割合

長期的な成果:農林機具による事故の減少

### 成果5

活動指標:サイクリングマップ配布数

短期・中期的な成果:安全なサイクリングに対する意識の向上

長期的な成果:サイクリング事故の減少

### 成果6

活動指標:安全確認ポイント設置数

短期的な成果:安全確認ポイントの周知度

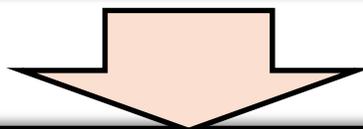
中期的な成果:安全確認ポイント利用者数

長期的な成果:サイクリング事故の減少

# 新たな課題と今後の方向性

## 新たな課題

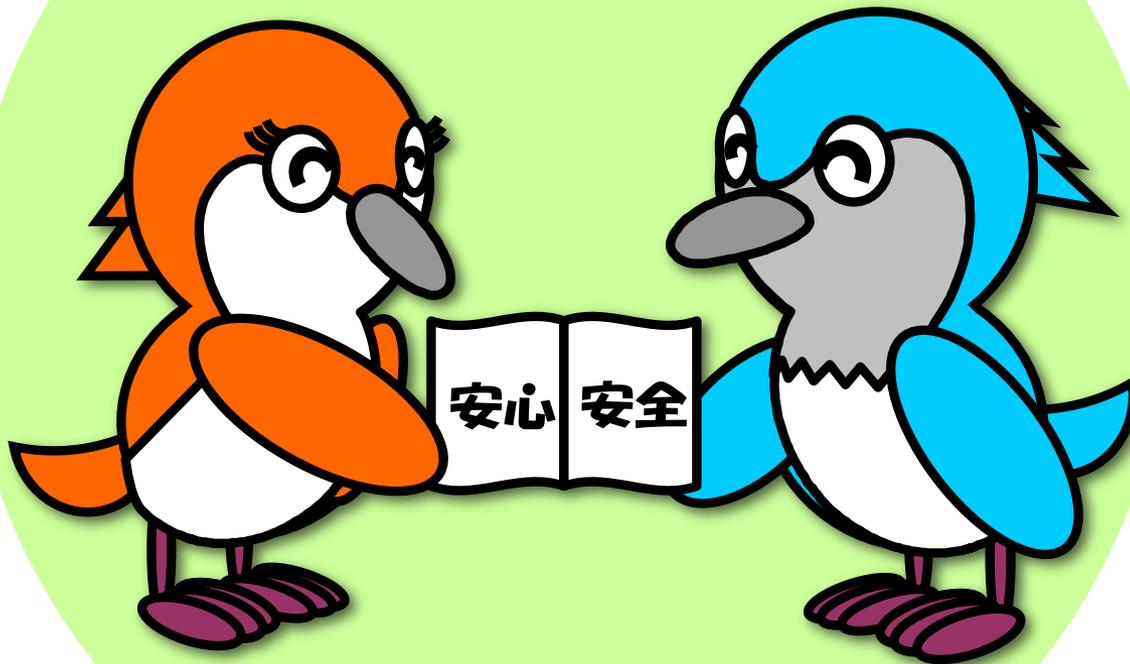
- \* 登山は、男性や世代ごとに個別の対策ができていない
- \* 農林機具の講習会は参加料がかかってしまう
- \* 外国人観光客に有効な情報伝達方法がない



## 今後の方向性

- \* 登山は、年代や性別に合わせた対策を検討する
- \* 講習会への参加方法を工夫する
- \* 外国人観光客向けの情報伝達手段を検討する

セーフコミュニティ



秩父市

ありがとうございました！